

1 児童生徒の学びをサポートするICT活用

(2) 対話的な学び ICTレコーダを活用した「声の学級通信」

 **こんな実践**

紙ベースの「読む学級通信」だけでなく、ICTレコーダを活用して生徒や教師の音声を収録した「聴く学級通信」を、保護者や生徒に向けて配信した実践事例です。

実践学校 Q中学校

実践学年 1～3学年

実践時期 通年

単元・題材名 「音声メディアの『聴く学級通信』」

- 参観日の生徒の様子は、日常の姿とはだいぶ異なります。生徒は自分の家族が見ている前で、いつもの自分らしさをなかなか出しにくいこともあります。また同様に、生徒が日記の文章に書く自分の言葉と、教室で友達や先生と交わす言葉ももちろん異なります。そのような「素の自分」を取り入れた学級通信を発行できないかと考えた学級があります。
- 写真等を掲載している通信は多く見られます。しかし、写真や動画を撮るためにカメラのレンズを向けることに対して、多くの生徒は苦手意識が強く、避けてしまったり「素の自分」を出せなかったりします。また、個人情報流失と同様に、生徒の顔や動きについて肖像権侵害の問題も発生してきます。そこで、動画ではなく音声のみならば、通信の発行も可能ではないかと考えました。声だけならば顔も見られることなく、動作も映りません。思春期の生徒の生の声を残した音声メディアの「聴く学級通信」という発想です。

**ここがポイント！**

特別な機器を用いることなく、身近にあるICTレコーダを活用して気軽にできることです。難しい操作もないので、生徒同士でも簡単に収録活動を行うことができます。

また、音声の編集に凝ってもよいですが、先生の負担を減らす意味でも、そのままの音源を利用するとよいでしょう。

- 行事の感想や学校の様子、そしてもっと踏み込んで友達関係や恋愛のことまで、意外にも生徒はいつもの素の声で話してくれました。また、写生会やクラスマッチ、キャンプや修学旅行などの宿泊行事へICレコーダを持参して現地レポートを収録したり、ついには担任の手の離れて生徒同士でマイクを向け合ったりして、インタビュー取材ができるようになってきました。こうして活字メディアの学級通信と併行しながら、音声メディアというもう一つの学級通信ができあがりました。



写真 コミュニティFM放送スタッフと生徒との取材合戦の様子

- 保護者から「声の学級通信は、家とはまったく違う我が子の声が聴けて楽しみです」という言葉をいただくようになり、このように発展させてきた新しい形の学級通信の存在が学校外へも伝わったようで、地元ラジオのコミュニティFM局が取材に訪れることとなりました。番組パーソナリティの方が生徒にマイクを向けると、意外にも流暢に話し始めた生徒たちでした。それどころか、逆に収録しようとマイクを向け始め、取材合戦が始まりました。この模様は実際にラジオ番組として放送され、この学級の声の学級通信としても配信されました。

まとめ

写真や動画がない音声のみの通信となるため、想像力豊かな生徒を育てる一助となるでしょう。

紙面からスタートした学級通信が音声メディアへと発展を遂げたことで、生徒の言語活動の充実につながる学級づくりとなりました。